

鳥取県福祉研究学会第18回研究発表会 発表要旨等一覧

口述発表											●=発表者	
通し 番号	分野	分野 番号	分科会	分科会場	発表 時間	研究代表者 所属団体等	発表者 職	発表者 氏名	発表者氏名 (ふりがな)	発表テーマ	発表要旨	研究者 氏名
1	高齢 (施設系)	①	第1分科会 (施設) A	K-201	10:00～ 10:20	社会福祉法人 あすなろ 会 高草あすなろ	介護福祉士	竹中 麻衣子	たけなか まいこ	介護現場におけるICT活 用と業務効率化	ICT機器（インカム）を活用し業務改善を図ったこと で、時間にゆとりが生まれアクティビティの充実や利用 者の個別対応等、ゆっくり利用者に関わることができて いる。また、タイマーに様々な情報交換や共有が行え ているので、事故防止にも役立っており、チーム力も上 がっている。	●竹中 麻衣子 ●高木 英美 ●中村 美加子
2		②			10:25～ 10:45	社会医療法人 明和会医 療福祉センター 渡辺病 院	看護師	平木 かおり	ひらぎ かおり	胃ろう造設後に経口摂取 をめざす認知症患者と家 族への支援がもたらした 心理的变化	経口摂取に向けて摂食嚥下訓練に取り組む胃ろう造設患 者とその家族への支援が、患者家族の反応・言動にどの ような変化をもたらすのかを明らかにする。	●平木 かおり
3		③			10:50～ 11:10	医療法人社団日翔会 グループホーム華つばき	介護福祉士	田中 幸太	たなか こうた	抗菌性洗口剤をもちいた 口腔内の細菌減少	抗菌性洗口剤を使用したがいが口腔内の細菌減少に有 益であることを立証する。	●田中 幸太 ●後藤 祐晃
4		④			11:15～ 11:35	社会福祉法人日翔会 特別養護老人ホームあい ご	機能訓練指導員	山本 香織	やまもと かおり	セラミド効果で皮膚トラ ブル改善	セラミド配合の保湿剤を使用することで、乾燥や痒みが 軽減できることを立証する。	●山本 香織 ●池田 尚行
5		⑤			11:40～ 12:00	医療法人 養和会 小規模多機能ホーム仁風 荘ひこな	介護福祉士	深田 圭吾	ふかだ けいご	令和6年能登半島地震支 援報告 ～全老健DMSPの 実践と課題～	令和6年能登半島地震の発災に際して、当法人は全老健 DMSPへの参加により1.5次避難所での支援活動を行っ た。その支援活動への組織的な取り組みの過程と効果 を、避難所での課題とその改善を行った事例を含めて報 告する。	●深田 圭吾

通し 番号	分野	分野 番号	分科会	分科会場	発表 時間	研究代表者 所属団体等	発表者 職	発表者 氏名	発表者氏名 (ふりがな)	発表テーマ	発表要旨	研究者 氏名
6	高齢 (施設系)	⑥	第1分科会 (施設) B	K-206	10:00～ 10:20	医療法人(財団)共済会 清水病院 回復期リハビリ テーション病棟	看護師	津久井 友紀	つくい ゆき	塗り絵作業が認知症高齢 者のBPSDに及ぼす効果	認知症高齢者が塗り絵作業を取り組むことで、BPSD症 状の緩和につながるのかを検証した。	●津久井 友紀 井中 智子 山口 恵介 出會 穂波
7		⑦			10:25～ 10:45	社会福祉法人あすなろ会 介護老人福祉施設 白兔 あすなろ	介護福祉士	田中 信一	たなか しんいち	「福祉機器の活用・定着 を目指して」～働きや すい環境作り～	高齢化が進む中、介護人材不足が問題視されている。当 施設においても人材不足や職員の高齢化により、身体 的、精神的負担が大きくなっているのが現状である。こ のような状況を補うために福祉機器や見守り機器を導入 した。活用、定着に向けて施設全体で取り組んだ成果に ついて報告する。	●田中 信一 ●中村 拓哉 杉森 司
8		⑧			10:50～ 11:10	社会福祉法人あすなろ会 鳥取市介護老人保健施設 やすらぎ	介護士	大久保 さつき	おおくぼ さつき	EASEプログラム®を用い て自己効力感に変化をも たらした一事例	意欲低下のある利用者に対して、認知行動療法ならびに 保健行動モデルなどを参考に開発されたEASEプログラム ®を用いて自己効力感に変化をもたらすために取り組み を行った	●大久保 さつき 園田 宏美 米田 弥生
9		⑨			11:15～ 11:35	社会福祉法人 こうほうえ ん 介護老人福祉施設 よなご 幸朋苑	看護師	中島 美由紀	なかしま みゆき	要介護高齢者に対する排 便促進ケアの効果 ～3つの排便プロセスに 沿ったチームケアを通し て～	要介護3以上の高齢者は、活動量の減少等により刺激性 下剤に頼らざるを得ないケースが多い。そこで、より効 果的な排便促進ケアを確立する為、3つの排便プロセス に沿ったチームケアを実践した。取り組み前後3ヶ月の 排便状況等を分析し、ケアの効果と今後の課題を検討し たことを報告する。	●中島 美由紀 赤木 歩美 遠藤 稚江 藤原 彩香 藤原 和美 後藤 良姉枝 堀田 幸恵
10				11:40～ 12:00	社会福祉法人 真誠会 グループホーム青松庵	管理者・介護福 祉士	亀谷 宏明	かめたに ひろあき	音楽活動がもたらす認知 症状の進行予防と心身に 与える効果 ～ピアノ演奏と思い出の 歌～	生活の中に音楽活動を取り入れる事で認知症の進行予防 や心身の活動性を促進させる	●亀谷 宏明 増田 敬子 和嶋 ひとみ	

通し 番号	分野	分野 番号	分科会	分科会場	発表 時間	研究代表者 所属団体等	発表者 職	発表者 氏名	発表者氏名 (ふりがな)	発表テーマ	発表要旨	研究者 氏名	
11	高齢 (在宅系)	①	第2分科会 (在宅)	K-205	10:00～ 10:20	社会福祉法人 あすなろ 会 高草あすなろデイサービ スセンター	介護士	中原 裕美	なかはらひろみ	デイサービスに求められ ているものとは ～アンケート結果から見 えたもの～	利用者に楽しんで頂くために、利用者や地域住民へ実 施したアンケートをもとに、外出レクリエーションを を行い利用者の笑顔や身体機能、稼働率の向上につなげ た。	●中原 裕美 ●安部 美幸	
12					②	10:25～ 10:45	社会福祉法人 鳥取福祉 会 鳥取市桜ヶ丘デイ サービスセンター	作業療法士	鈴木 眞紀	すずき まき	わかる・できる・教えら れる介助技術 ～職員個々が成長するた めに～	施設のニーズとして中重度利用者の受け入れ態勢を整 えてきた。ゆえにR4年度から介護技術向上に取り組ん できた。R5年度は残された課題をもとに更なる介助技 術向上を目指し、厚労省キャリア段位制度を応用した 人財育成を行うこととした。その取り組み内容を発表 する。	●鈴木 眞紀 ●前川 美香 ●他8名
13					③	10:50～ 11:10	社会福祉法人こうほうえ ん 短期入所生活介護 新しいなば幸朋苑	介護福祉士	浮田 倫子	うきた のりこ	タイムスタディ時間分析 から、 荷物確認時間を短縮し利 用者とのかかわりが増え た取り組み	短期入所型では日々の入退所により、荷物管理を行っ ている。持参荷物の確認に追われ、利用者への直接介 助に関わる時間が確保できず焦りや負担に感じる職員 が多く見られた。タイムスタディを行い荷物確認方法 を改善し取り組んだ結果、時間の削減につながり、利 用者へ関わる時間が確保できた経過を報告する。	●浮田倫子 ●米原喬子 ●中野千香子
14					11:15～ 11:35	伯仙デイサービスセン ターまごころ	主任介護福祉士	藤原 陽子	ふじはら ようこ	デイサービスセンターま ごころが誰にとっても安 心できる場となるために ～パーソン・センタ ード・ケアを土台とした職 場づくり～	パーソン・センタード・ケアをデイサービスまごころの 当たり前。理想を掲げ邁進していた私に、全職員から 「やりがいなし」「上司失格」が突きつけられスタート した改革。その状況を救ったのはパーソン・センタ ード・ケアだった。安心できる関係性こそがケアの質を決 める、その認知症介護理念のもと利用者に当たり前で きていた「心づかい」や「気くばり」が職員には出来て いなかったことに気が付かされる。「安心して認知症に なれる社会づくり」の出発点として、パーソン・セン タード・ケアを土台とした職場づくりの取り組み成果と 今後の課題を報告する。	●藤原 陽子	
15					11:40～ 12:00	社会福祉法人 こうほう えん 認知症対応型デイサービ スセンター さかい幸朋 苑	主任相談員	藤澤 哲哉	ふじさわ てつや	在宅事業所における記録 の電子化、システム移行 と効率化について	昨年度、小規模多機能型居宅介護事業所にて、紙ベース の情報管理からタブレット入力とPCを用いた情報システ ムへ移行した。 今年度は、認知症対応型通所介護事業所にて、システム が日々の業務に組み込まれた状態より、さらなる業務の 効率化への取組を行った。 一連の流れから現状の結果を報告とする。	●藤澤 哲哉	
16					12:45～ 13:05	社会福祉法人 こうほう えん 訪問看護ステーションな んぶ幸朋苑	言語聴覚士	執行 誠二郎	しぎょう せいじろう	老老介護における言語聴 覚士の食べる支援の取り 組み ～餅を食べられるまで改 善した一例～	摂食・嚥下障害を有する100歳のご利用者の訪問リハ ビリ(言語聴覚療法)を担当した。看取りも視野に 入っていたが、初期評価にて積極的な経口摂取を目指 せると考えられ、老老介護の状況を踏まえて特に家族 指導へ注力した。介入開始から半年後には自力経口摂 取が可能となったことでデイサービスの利用が開始と なり、希望であった餅を食べられるまで改善した。本 症例への関わりを通して学んだ老老介護における食べ る支援の取り組み方について報告する。	●執行 誠二郎	

通し番号	分野	分野番号	分科会	分科会場	発表時間	研究代表者 所属団体等	発表者 職	発表者 氏名	発表者氏名 (ふりがな)	発表テーマ	発表要旨	研究者 氏名
17	障がい児・者福祉	①	第3分科会	K-202	10:00～ 10:20	社会福祉法人鳥取県厚生事業団 障害者福祉センター 友愛寮	介護員	田中 秀志	たなか しゅうじ	「利用者が希望する地域生活の実現に向けて～終の棲家(すみか)から自分の住み処(すみか)へ～」	障がい分野では、施設から地域での生活へのシフトの方向性があり、かつ利用者の意向の尊重が求められている。当寮において、在宅やGH（グループホーム）等での生活を希望する利用者が現れ、これを実現するために当寮では提供できない、「就労」としての作業、金銭感覚や新たな人間関係の中での社会性の習得、身体機能の機能向上のために、作業所への通所を打診し、実際開始した利用者が3名いる。この利用者たちの通所前後の状況などを比較し、効果を確認することで、当該利用者の希望する将来の地域生活にどうつながっていくのかを検証する。	●田中 秀志 ●八田 直美
18		②			10:25～ 10:45	一般社団法人鳥取県障がい者スポーツ協会	スポーツ指導員 兼事務職員	山口 雅彦	やまぐち まさひこ	障がいがある人のスポーツ推進施策の現状と課題	本県では「鳥取県スポーツ推進計画」及び「鳥取県障がい者スポーツ振興指針」による障がいのある人のスポーツ推進がなされているが、現状と問題点・課題を発表する。	●山口 雅彦
19		③			10:50～ 11:10	社会福祉法人こうほうえん キッズタウンからふる・錦海リハビリテーション病院	言語聴覚士	渡邊 真紀	わたなべ まき	キッズタウンからふるにおける保護者支援の取り組み	児童発達支援事業所は、何らかの発達上の課題がある、またはその疑いのある就学前の子どもが利用している。子どもの社会性や行動上の特性から、保護者の感じる育児負担は大きいと考えられる。そこで、適切な家族支援につなげるために、保護者の育児ストレスの強さや内容について調査し、報告する。	●渡邊 真紀 ●松岡 恵美 ●船越 良美
20					11:15～ 11:35	社会福祉法人 祥和会 祥福園	支援員	加藤 良子	かとう よしこ	意思決定支援ー知りたい本当の気持ちー	自閉症で発語のない利用者の方の意思決定をどのように支援していくか。	●加藤 良子 ●井田 佳邦 ●大木 由紀子 ●安達 俊彦 ●崎田 朱美
通し番号	分野	分野番号	分科会	分科会場	発表時間	研究代表者 所属団体等	発表者 職	発表者 氏名	発表者氏名 (ふりがな)	発表テーマ	発表要旨	研究者 氏名
21	児童福祉	①	第4分科会	K-202	11:40～ 12:00	社会福祉法人鳥取福祉会 津ノ井保育園	保育士長	青木 マヤ	あおき まや	ヒヤリハットをアクシデントにしないために～ 安全意識と事故予防～	保育現場では、乳幼児の様々な事故が年々増加している。その現状を踏まえ、教育・保育施設で安全な生活を送るために、「なぜ安全教育が必要なのか」を探り、問題点を明らかにしながら、インシデントやアクシデントデータの実態把握や子どもの行動特性や事故との関係、課題についてデータの分析結果と現状の課題から現在取り組んでいる安全管理について考察、検討を行う。	●青木 マヤ
22		②			12:45～ 13:05	鳥取市立浜村保育園	主任	三村 敬子	みむら けいこ	地域に親しみをもって自分から関わろうとする子どもをめざして～地域・家庭と楽しくつながるネットワークづくり～	・地域子育ての協働活動の工夫 ・小学校との連携・接続の工夫 ・子育て支援の充実の工夫	●三村 敬子 ●田中 映子
23		③			13:10～ 13:30	(有)育成 育成こども園	保育教諭	佐藤 風沙	さとう なぎさ	妖怪と出会い地域とつながる	この発表は、コロナ禍で地域のお祭りに参加できない中、子どもたちの「お祭りをしたい！」という気持ちから始まったプロジェクトです。子ども達が思い描くお化け屋敷造りを通じて、友だち同士の関わりや得意なことを主体的に取り組んだりする姿が育まれました。特に、この活動を深めていくプロセスに、子どもたちが自主的に考え試行錯誤したり表現したりしながら、友だちと協力して一つのものを創り出していく協同的な活動となりました。	●佐藤 風沙 ●門脇 麻里 ●善浪 真紀

通し 番号	分野	分野 番号	分科会	分科会場	発表 時間	研究代表者 所属団体等	発表者 職	発表者 氏名	発表者氏名 (ふりがな)	発表テーマ	発表要旨	研究者 氏名
24	地域 福祉	①	第5 分科会	K-204	10:00～ 10:20	学校法人藤田学院 鳥取 短期大学	准教授	青木 淳英	あおき あつひで	潜在的ニーズを抱える人 やひきこもり状態にある 人への支援方策（地域づ くりに向けた支援）の検 討 ～倉吉市人々のつながり に関する調査等の結果か ら～	2024年7月に、倉吉市と共に行った「人々のつながり に関する調査（市民対象）」などの結果を踏まえて、 潜在的ニーズを抱える人やひきこもり状態にある人へ の支援に必要な「社会資源の開発（地域づくりに向け た支援）」について考察した結果を発表する。	●青木 淳英
25		②			10:25～ 10:45	公益財団法人とっとり県 民活動活性化センター	企画員	椿 善裕	つばき よしひろ	「地域の見える化」で支 援活動の質を高める	公的な統計等を活用し、「地域の見える化」を図り、 しっかりとした根拠を基に事業や活動の質や精度を高 めるための考え方と、取り組みの流れを発表。	●椿 善裕
26		③			10:50～ 11:10	社会福祉法人 三朝町社 会福祉協議会	総務課	宮脇 広憲		子ども・若者が主体性 (will-can-must)を 持って地域参加するボラ ンティアメニューの実践 ～みさき子ども・若者育 成会における多機関協働 ～	子ども・若者が主体性（特にwill（したい）、can （できる））を發揮しながら地域と関わりを持ち、地 域に目を向ける機会となるボランティアメニューを 「みさき子ども・若者育成会 事業チーム」において 実践した報告。	●宮脇広憲 村岡健
27		④			11:15～ 11:35	日本赤十字社鳥取県支部 鳥取市佐治町赤十字奉仕 団	委員長	小谷 竜子	こだに りゆうこ	災害時における被災地内 でのボランティア活動に ついて	災害時のボランティア活動の実践を通して、地域にお ける平時からの取り組み等について考察する。	●小谷 竜子
28		⑤			11:40～ 12:00	東西町地域振興協議会		黒木 美由紀	くろき みゆき	安心して暮らし続けたい 町づくりを目指す	合併を契機に南部町には小地域多機能自治組織として 7つの地域振興協議会が設立されました。我が東西町 地区も、東西町自治会と東西町地区公民館が一つにな り東西町地域振興協議会が設立されました。地域振興 協議会になってからの町づくりや福祉について紹介し たいと思います。	●黒木 美由紀
29		⑥			12:45～ 13:05	社会福祉法人 こうほう えん	地域総合支援室	伊藤 道美	いとう みちみ	子どもの居場所づくりを 中心とした新たな地域づ くりをめざして	高齢化のすすむ永江団地は自治会の存続がむつかしく なるなど住民の力では地域を支える活動を継続してい くことが限界を迎えつつあり特に子供や子育て世帯を 支える仕組みが不足している。こうした状況を踏まえ て住民の日頃の居場所や交流の場になる多世代交流の 居場所を設けることが必要と判断して「みんなの居場 所あいRIN」を開所した。活動していく中で不登校の 子供、シングルマザーなど社会的な課題を抱える早期 発見、見守りなどにも対応する取り組みを報告する。	●伊藤 道美 藤井 和夫
30		⑦			13:10～ 13:30	学校法人藤田学院 鳥取 短期大学幼児教育保育学 科	学生	山脇 悠人	やまわき ゆうと	鳥取県における子ども食 堂支援の現状と課題 ～学生ボランティアへ の支援方法の検討～	鳥取県内の子ども食堂（以下、食堂）及び食堂運営を 支援する団体（以下、中間支援団体）への調査から食 堂の現状と課題を明らかにし、私たち保育学生がこれ らの活動に関わるための方策を検討した。また、保育 学生が食堂の活動に関わる意義も考察した。これらの 結果を発表する。	●山脇 悠人 ●安藤 侑奈 青木 淳英

ポスター発表

●=発表者

通し 番号	分野	分野 番号	会場	発表 時間	研究代表者 所属団体等	発表者 職	発表者 氏名	発表者氏名 (ふりがな)	発表テーマ	発表要旨	研究者 氏名
1	高齢 (施設系)	①	エントラン スロビー	10:00~ 13:30	医療法人養和会養和病院 介護医療院	介護福祉士	福間 宏喜	ふくま ひろき	能登半島地震被災地支援 活動を経験して	能登半島地震後、法人から支援活動に金沢1.5次避難所 へ行った事を経験をまとめた。	●福間 宏喜
2		②			医療法人養和会養和病院 介護医療院	准看護師	角 良太	すみ りょうた	人生の最終段階における 家族との関わり	人生の最終段階において、ご家族とご自宅へ外出をされ た事をまとめました。	●角 良太